
ヒーローと言えば桃太郎

ランプ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヒーローと言えば桃太郎

【Nコード】

N2036V

【作者名】

ランブ

【あらすじ】

「ヒーローと言えば日本では桃太郎ですよね」そんな偏った英雄像を持つ少女（日本からトリップしてきた女の子）と生真面目だけどどこか天然な勇者のゆるい掛け合い。

お話はすべて会話のみの予定です。もしかしたら途中で面倒になって心理描写くらいは入っちゃうかもしれませんが、今のところは会話文のみです。

お腰につけた（前書き）

一話一話はとても短くなる予定です。

お腰につけた

「勇者様、勇者様」

「なんだいサル君」

「お腰につけた吉備団子、一つ私にくださいな」

「は？ キビ？」

「ああ、そうでした。桃太郎はこの世界では通じないのです。いません。何でもないです」

「え？ あ、そう……？」

「はい、どうもすいませんでした」

「いや、そんな謝らなくてもいいけどね？ ……もし申し訳ないと思ってるならそろそろ名前を……」

「私の名前なんていいじゃありませんか。私なんてサルで十分ですよサルで」

「いやでも……人間をサル呼ばわりするのもやっぱり気が引けて……」

「だって勇者様が悪いんですよ」

「は？」

「鳥の姿をしている精霊と、犬の姿をしている聖獣を連れたヒーロー（勇者）とか……桃太郎じゃないですか！　ここで私が足りないサルをやらなくてどうするんですか！」

「え？」

「すいません今は世迷言です。忘れてください」

「いやでも……」

「忘れてください」

「……………」

「それよりも勇者様」

「なんだいサル君」

「私達は今どこに向かっているのでしょうか？」

「ああ、そっか。君にはまだ言っていなかったね。僕たちは今魔王が住まう魔族の大陸を目指してるんだよ」

「鬼ヶ島ですねわかります」

「え？」

「なんでもありません。お気になさらずに」

「え、そう?」

「はいそうです。……それにしても魔王ですか。いよいよもってフアンタジーかつ王道ですね」

「そうかい?」

「ええ。剣と魔法の世界。勇者。魔王。なんて素敵な王道ストーリー! さらに日本は日本の古来より伝わるヒーローと同じキジ、犬、サルを連れてるなんて……」

「キジ?」

「あ、その精霊の事です。見た目まんま私の知ってるキジなんですよね」

「そうなんだ。ニホンって君がいたところ?」

「はい。カオスが形を成したような国です」

「え?」

「なんでもないです忘れてください」

「また?」

「忘れてください」

「……………」

お腰につけた（後書き）

意味？ 目的？ ストーリー？ なにそれおいしいの？

吉備団子

「勇者様、勇者様」

「なんだいサル君」

「あれはいつたいなんなのでしょう？」

「あれ？」

「はい、あの路上で売っている妙に甘く芳しい香りを放つ白い物体は」

「ああ、あれはこの地方のお菓子だね。名前は『キビダ・ゴ』と言
うらしいよ」

「吉備団子!？」

「いや『キビダ・ゴ』」

「吉備団子……」

「聞いちゃいないね」

「勇者様あれ買いましょう」

「ん？ 食べたいの？」

「食べたいと言うか、勇者様のお腰にぶら下げておいて欲しいので」

す」

「え、僕甘いものってあんまり好きじゃないんだけど……」

「大丈夫です。食べるのは勇者様ではありません」

「あ、そうなの？（サル君が食べるのかな？）」

「はい、食べるのは私と犬とキジです」

「え」

「勿論伝説のあの台詞も忘れません。『桃太郎さん桃太郎さんお越しにつけた吉備団子一つ私にくださいな！』」

「とりあえず、言いたい事全部言っていいかな？」

「どうぞ」

「まず最初に君が犬とキジと呼んでいるものは生物としての規格に入らない特殊な存在だ。だから物を食べたりする事はしないんだよ」

「でも食べられますよね？」

「え」

「食べられますよね？」

「……まあ、食べる事は可能だろうけど」

「なら問題ないですね」

「（問題ない……のか？）そ……それじゃあ、次。なんでわざわざ僕がもつのかな？」

「セオリーです」

「せお……？ え？」

「吉備団子は桃太郎が持ち、桃太郎は吉備団子を持つべきなのです」

「いや僕そのモモタローじゃないから勇者だから」

「同じです」

「同じ……か？」

「さあさあ勇者様。さつさと吉備団子を買ってお腰につけてください」

「いやいや待つて。最後に一つ聞きたいんだけど……伝説の台詞って……何？」

「それはあれです。夢とロマン溢れる秘密の呪文。子供心にトキメキを覚えたあの興奮を今！ そう今！」

「ごめん全然わかんない」

「まあ別に理解してほしいなんてこれっぽっちも思ってますので説明はおさなりかつ適当です」

「……………」

「さあ！ もう聞きたい事も聞き終えた事ですし！ 急いであの吉備団子を奪取しに行きましょう！」

「ちゃんとお金払って買おうね」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2036v/>

ヒーローと言えば桃太郎

2011年8月6日10時51分発行